

1. 今年の 10 大ニュースを取り上げる

師走となり Xmas や忘年会の狂騒が夜の街中を駆け巡る時期となりました。メディアが一斉に「今年の 10 大ニュース」や大相撲の番付表に似せた「ヒット商品番付」を続々と発表し始めています。

さて今年の日本社会に影響を与えたニュースにどのようなものがありましたでしょうか。経済事件を中心に順不同で清成の独断専行で listup してみました。(参考: YONIURI ONLINE-2018 年日本の出来事)

- ①「着物レンタル『はれのひ』突然の閉鎖」(1/8)、
- ②「女性記者にセクハラで財務次官辞任」(4/18)、
- ③「働き方改革関連法が成立」(6/29)、④「西日本豪雨で死者 220 人超」(7/5~)、⑤「カジノ法成立」(7/20)、⑥「埼玉・熊谷で国内最高気温 41.1 度」(7/23)、⑦「省庁の障害者雇用水増し相次ぎ判明」(8 下旬)、⑧「大型台風襲来、関空が冠水し孤立」(9/4)、⑨「北海道で震度 7、道内全域で停電」(9/6)、⑩「日米が物品貿易協定の交渉開始で合意」(9/26)、⑪「経団連、2021 年春から就活ルール撤廃」(10/9)、⑫「フェイスブック情報流出で行政指導」(10/22)、⑬「TPP が年内発効へ」(10/31)、⑭「政府、巨大 IT 企業(GAFA)の規制強化へ」(11/5)、⑮「日産・ゴーン会長を逮捕」(11/19)、⑯「2025 年万博、大阪で開催決定」(11/23)。

「今年の 10 大ニュース」と見出しを付けました。しかし 12 月を除いても「これは!」と思う事件が 16 件もありました。

私が購読している日本経済新聞や日経 MJ では、平成が来年で終わるとして「平成 30 年でどう変わった」という特集を沢山組んでいます。私見で恐縮ですが最大なものネット社会の到来でしょう。IT がここまで深化すると誰が予想できたでしょうか。偶然にも 7 日にソフトバンクが通信障害を発生させ、市民生活のみならず宅配等のビジネスにも大きな被害が発生したと報道されていました。

便利さ・利益・効率を追求していくと、これと並行して走っている不便さ・不利益・非効率性、ある日突然と現実化してくるという事実をソフトバンクの事例で思い知らされました。

今年もあと僅か。自社の経営に与えかねない事件等を洗い出してみるのも良いかも知れません。

2. 経営リスクを読み取り対策・工夫を創案

左欄の「今年の 10 大ニュースを取り上げる」に関連して、**会社経営に与える経営環境リスク**について考えてみたいと思います。

④、⑥、⑧は地球温暖化の影響が年々拡大していることを示しています。③は時間外労働を厳しく制限していくという国の方針が明確にされました。これらの事件を相互に関連させると、会社は幾つかの対策を創案する必要性が見えてきます。

例えば、5 月から 9 月までの勤務時間を変える試みが創案できます。仮に「始業 8:30、終業 5:30、休憩 1 時間の実労働 8 時間」を「始業 7:30、休憩 2 時間」としてみます。休憩は連続でも良いし、1 時間と 30 分 2 回に分ける工夫もありそうです。こうすれば熱中症対策になります。また早朝の方が社外の邪魔が入らず仕事に集中できそうです。

ちなみに欧州スペインでは昼休みを 3 時間!も取るらしいです。これは極端ですが、ES (従業員満足) と CS (お客様満足) とを調整しつつ、自社の働き方改革に着手しても良いかも知れません。

今年の事件簿一覧から勤務時間の大胆な変更を例示しましたが、**社外の環境リスクに関心を寄せビジネスモデルの修正を怠らない様**にしたいものです。

3. 「古事記」を読む

古事記に今はまっています。著者は小名木善行、青林堂発行、「むずさんと語る古事記」で巻・弐・参の三巻仕立てです。古事記は創成神(天地開闢)から律令制による国家体制が確立するまでを、漢字が持つ意味を活用して物語っています。また大和言葉を「音読み」という知恵で記述しています。

無学の私には原文と原文読み下し文は分かりません。でも解説を読んでいくと古事記の著者太安万侶(と稗田阿礼)が何を後世へ伝えようとしていたのか診えてきます。天皇制の正当性を伝えるという側面より、**その当時に広がっていた風俗や習慣、日本人の思考方法、農業、商工業、組織や人間関係の在り方等々、現在まで通ずる“日本人の何か(本質)”を伝えたかったように思います。**

会社には経営理念や創業の精神が文章化されています。これらと同じ様に、**古事記は日本人の原点を書き綴っている**と思いました。